

地域医療施設における介護ロボット機器・サービスの導入促進に関する研究



ヒューマン・ロボティクス研究センター (HRRC)
代表
理工学部 機械工学科 教授

牛見 宣博



研究シーズの紹介

高齢化社会への対応のため医療介護のコスト抑制と効率化は喫緊の課題となっている。対策として介護ロボット機器やサービスの導入が試みられているが、現場での運用例は少ない。導入が進まない理由の1つとして、実際の運用時に生じる諸問題を開発側が把握できていないことが挙げられる。本研究では、医療介護の現場ニーズに応える介護ロボット機器およ

びサービスに関する実践的な研究開発を通して、現場の運用で重視すべき事項を明らかにする。開発の初期段階からそれらを考慮することで、実運用まで見据えた介護ロボット機器・サービスの開発が可能となり、医療介護施設への導入促進が期待できる。



介護ロボット機器・サービスの導入

- 医療施設における介護の現場ニーズに基づく研究開発
- 現場ユーザの立場に立ったプロダクトデザインと適切な技術シーズのマッチング
- 現場ユーザによる評価フィードバックの適宜実施



アシストスーツ
(介護用装着型補助具)



リハビリ用筋電チェッカー

期待される活用シーン

- 医療現場において介護者の身体的負担を軽減させたい。
- ゲーム感覚でリハビリをしたい。



- ・ 身体的負担を軽減するアシストスーツの開発
- ・ 荷重・バランス訓練を行える立位荷重リハビリ機器



- 病院から退院後に家庭で自立した生活ができるか心配です。



- ・ 病院内に自宅と同じトイレアプローチを再現するトイレシミュレーター
- ・ 高齢者用家具の提案

